生活の様式

宮本百合子

芍薬

「これ　八百屋の店先に　バケツにつけてあったの。一束八銭よ　これだけで十六銭　やすいでしょう。こないだ夜店で一輪五銭の蕾買って来たら　みんなさいて迚もうれしかった――この色少し気にいらないんだけれど……」

対照

「このチューリップは傑作だ。サティンのようにつやがある。」

そして、わきの紙をとって「一輪いくら？　一本五

銭？」とかくと　咲　その鉛筆をとって

「四本十銭とかく」

「じゃあっちはいくら？」

赤い芍薬をさす

「五銭？」

「それに　一たしただけ」

「なかなかよろしい」

咲、自家用にのって、やすい花屋をさがして吉祥寺

前の問屋とかで買って来た由。

芍薬二輪ぐらいずつ大切にいけられている、

額

「これいい絵ね　だれの？」
「淳さんの、恐らく淳さんの一番いい絵じゃないかっ
て　云われているの、
鶴さん大自慢ですよ　俺が其を見つけたって――」
「いくら」
「五円　お礼にあげたの、それもついこの間。――箇
展で赤札つけといてね」
「こっちは光子さん」
　自分の肖像

対照

大掃除　サイドボードを動かす

上の下らぬ大額をおろす。買い手が見つけられるから。

「あれを買うって？」

「本当？」

「本当！」

「へーえ、あれお父様ただ貰ったんだろう？」

「そうじゃないらしいわ、この間帳面見たら　野原五人立ち200［#「200」は縦中横］って書いてあるから　きっとこれだと思うわ」

「200［＃「200」は縦中横］だしてこれを買ったの？――どうかと思うね」

す。